

飯田善國・現代美術展

～ 彫刻への開眼 彫刻の思想 彫刻からの出発 ～

2013年9月～2014年3月

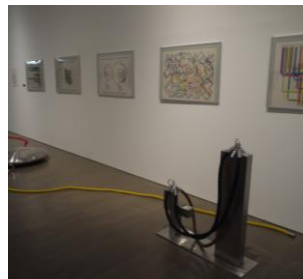


■ 飯田善國(いいた・よしくに)

1923(大正 12)年、栃木県足利郡生まれ。慶應義塾大学高等部から応召(学徒出陣)し中国大陆へ。戦後は慶應大学に復学し西脇順三郎に師事。卒業後の 1948(昭和 23)年、東京芸術大学入学、油絵科で梅原龍三郎に師事。卒業後は個展・グループ展などで作品を発表。1956(昭和 31)年、野上彌生子との縁でローマに留学しファツツーニのアトリエで初めて彫刻を学ぶ。後、ウィーンに移り 1959 年には抽象裸婦連作を描く。その後本格的に彫刻に転じウィーンやベルリンを拠点に活躍。1967(昭和 42)年帰国。翌年の第一回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で最高賞を受賞。木彫からブロンズ、ステンレスなどによる金属彫刻、さらに色彩と言語を独自のロジックで統合した「クロマトフィロロギア」による金属と着色ロープの作品など、独自の造形を見せる彫刻作品で内外に広く知られるほか、版画やコラージュなどの平面作品、ステンレスによる野外モニュメントも多数。享年 82 歳。

真っ白な壁、大きな天窗に明るい館内・・・現代的でスタイリッシュな雰囲気を漂わす IIDA・KAN。「現代美術」を収めるのにふさわしい器だとは思いませんか？ それもそのはず、実は当館は、大きな現代彫刻作品「SCREEN CANYON」(写真上)を収めるために設計されたのです。ステンレスと鉛の多面体とナイロンロープで構成され、「何がテーマか？より、何を感じたか？が大切です。何を感じるかは人それぞれです、それが彫刻です。」という飯田善國のメッセージとともに、未だに多くの謎が残されている作品です。「SCREEN CANYON」の彫刻展示室をメインに構成され、そこから絵画や展示ケースのある部屋が一繋がりに一巡できるようになっています。それは IIDA・KAN の曲線の壁からもみてとれます。

このたびの展示は、飯田の絵画のイメージとは一転、現代美術に関するものを集めました。屋外彫刻の写真、多面体とロープの彫刻、彫刻のための素描などを展示しています。作品 1 点をじっと見つめるのも良いですが、今回はぜひ作品と建物の調和もお楽しみください。



- 開館時間：午前 10 時～午後 4 時・無休
- 交通：[電車]大糸線穂高駅から「ハーモニック・ドライブ・システムズ」を目的地に タクシーで 15 分
[車]長野自動車道安曇野インターより 20 分
- お問い合わせ：〒399-8305 長野県安曇野市穂高牧 1856-1
株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ
TEL 0263-83-6800(代) <http://www.hds.co.jp>

IIDA・KAN

AZUMINO ART LINE
安曇野アートライン
当美術館は安曇野アートラインに参加しています



TRIAD 2000 年、創立 30 周年を記念して、モーションコントロール分野で更に高次元の理想を追求するために、生産および測定環境のプロトタイプとなる『研究棟（のちに I・K KAN と命名）』と、技術開発に携わる従業員の感性を高めるための『ギャラリー棟（のちに IIDA・KAN と命名）』と高いセキュリティを実現する『守衛棟』の三棟を建設しました。豊かな穂高の自然に溶け込みつつ、高度な技術的要求を独特のフォルム包み込んだこの建築群に、設計・監修を担当した槇総合計画事務所の“槇文彦”氏より「三つの」を語源とし「三和音」を意味する『TRIAD』の名称が与えられました。

